

コンテナ苗植栽による生育特性に関する調査

—イジュにおける植栽時期別苗木種別植栽試験—

育林・林産班 玉城 雅範

1. はじめに

イジュは沖縄島北部地域の主要な造林樹種の一つであり、苗木の需要は高い。しかし、苗木の生産量や質、植栽後の活着や生育が不安定である。その対策として、Mスターコンテナの活用が検討されている。コンテナ苗は根鉢に用土をつけて植栽するため、床替え苗や山取り苗などの裸根苗に比べ、植栽期間を長くする可能性がある。そこで、イジュのMスターコンテナ苗（以下、Mスター苗）、ポリエチレンポット苗（以下、ポリポット苗）、及び山取り苗を用いて、植栽適期である2月、及び植栽適期ではない8月に植栽を行ったので、試験の途中経過について報告する。

2. 試料・方法

供試した苗木は、前回報告（業務報告No30）の通りである。2月植栽は2019年2月19日、8月植栽は2019年8月14日に植栽を行った。8月植栽の試験地は2月植栽地に隣接するように設定した。植栽方法は2月植栽と同様に、苗木の種類毎に1区画50m²（5×10m）に20本（4,000本/ha相当）、2箇所とした（図-1）。活着確認は2019年5月28日、2019年11月27日に行った。また、苗高の生長量を確認するため、2月植栽の12ヶ月後、8月植栽の6ヶ月後にあたる2020年2月20日に調査を行った。

3. 結果

植栽時期別の生存率及び枯損症状を表-1に示す。2月植栽では、植栽3ヶ月後はポリポット苗及び山取り苗で立ち枯れが確認されたが、どの苗木種別でも高い生存率を示した。植栽9ヶ月後は山取り苗で立ち枯れが増加し、ポリポット苗で根返りが確認されたが、最も生存率の低い山取り苗でも85%の生存率であった。8月植栽では、植栽3ヶ月後は山取り苗で立ち枯れが最も多く発生し、Mスター苗でも根返りが確認されたが、最も生存率の低い山取り苗でも85%の生存率であった。

植栽時期別苗木種別の平均苗高を表-2に、植栽時期別の苗木種別の期間生長量を図-2に示す。2月植栽では、12ヶ月後の苗高平均生長量はMスター苗が6.9cm（標準偏差±3.6cm）、山取り苗の3.4cm（標準偏差±3.8cm）、ポリポット苗が8.8cm（標準偏差±3.8cm）となり、ポリポット苗、Mスター苗、山取り苗の順に大きくなっていった。8月植栽では、6ヶ月後の生長量はMスター苗が1.2cm（標準偏差±1.5cm）、ポリポット苗が1.7cm（標準偏差±1.5cm）、山取り苗が0.5cm（標準偏差±1.2cm）となり、ポリポット苗、Mスター苗、山取り苗の順に大きくなっていった。

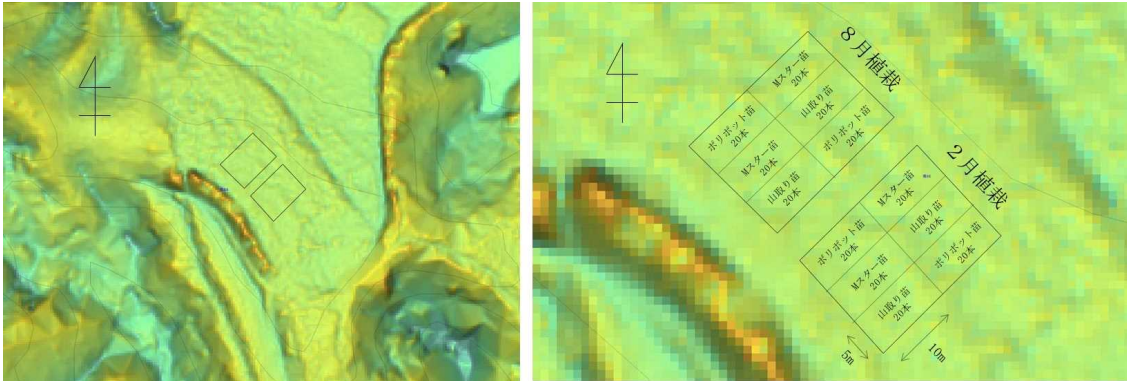


図-1 植栽地周辺の状況、及び植栽配置
※黒い枠が植栽地

表-1 植栽時期別の生存率及び枯損症状

植栽時期	苗木種別	植栽本数	植栽3ヶ月後					植栽9ヶ月後							
			生存本数	生存率	枯死本数	枯死症状			先枯れ	生存本数	生存率	累計枯死本数	枯死症状		
						立ち枯れ	根返り	その他(獣害等)					立ち枯れ	根返り	その他(獣害等)
2月植栽	Mスター苗	40	40	100	0				39	97.5	1	1			
	ポリポット苗	40	38	95.0	2	2			36	90.0	4	2	2		2
	山取り苗	40	38	95.0	2	2		2	34	85.0	6	6			2
8月植栽	Mスター苗	40	37	92.5	3		3		-	-					
	ポリポット苗	40	39	97.5	2	1	1		-	-					
	山取り苗	40	34	85.0	6	6		2	-	-					

表-2 植栽時期別苗木種別の平均苗高

項目	2月植栽 植栽12ヶ月後の平均苗高			8月植栽 植栽6ヶ月後の平均苗高		
	Mスター苗	ポリポット苗	山取り苗	Mスター苗	ポリポット苗	山取り苗
	苗高 (cm)	50.2	50.4	29.0	41.6	44.3
標準偏差	±9.0	±13.2	±8.6	±8.1	±11.8	±7.4

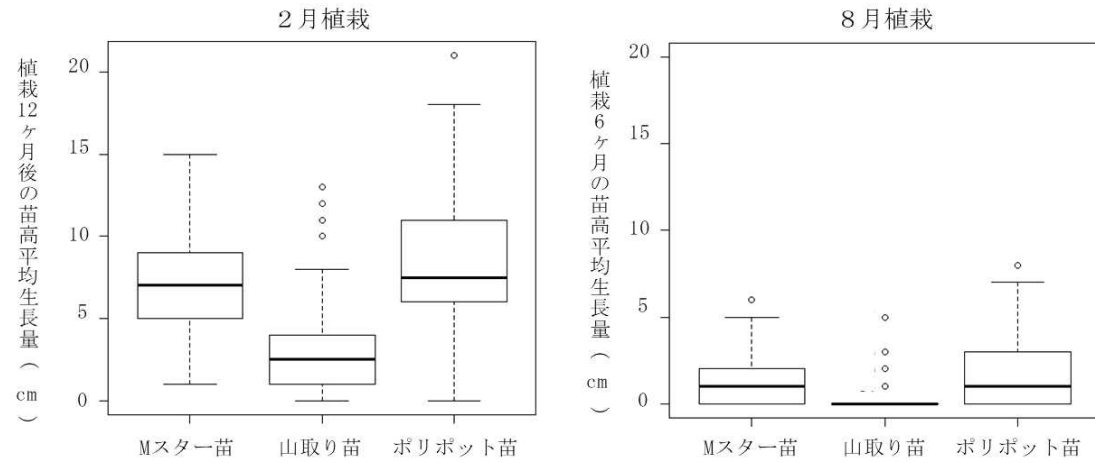


図-2 植栽時期別の苗木種別期間生長量